

# 「生き生きと豊かに学び合う子の育成」

## ～活用力を高める算数科の授業づくりをめざして～

加賀市立錦城小学校

### 1 事例の概要

本校は標記の研究主題・副題を設定し、19年度までの研究で積み上げてきた「聞き上手・話し上手」を育てる取組を、算数科の授業の中で自分の考えを筋道立てて表現する「説明上手」を育てる取組へとつなげつつ、児童の活用力向上を図る方策について研究を進めてきた。

本校が考える活用力を高める授業とは、考える場とその考えを交流し学び合う場がある授業である。そこで、課題解決型の授業スタイルを基本に、考える場（自力解決の場）において既習事項をどう活用するか、さらに学び合う場（集団解決の場）において友だちの考えや本時の学びをどう活用するかを2つを研究の柱とし、その手がかりとしてノート指導に重点を置き、授業実践を重ねてきた。

A-1 研究の全体構想

A-2 研究の組織

### 2 実践内容

#### (1) 活用力を高める算数科の授業づくり

##### ① 学びの足跡を残すノート指導の工夫

基本となるノートマニュアルを作成し、全校あげて「宝物になるノートをつくろう」という取組を続けてきた。教師が毎時間のノートをチェックしコメントを入れたり、ノート展示を行ってどんなところが良いのかの観点を示したりすることで、最初は上手く書けなかった児童も少しずつ書けるようになってきている。

B-1 ノート指導の工夫

##### ② 指導案の見直し

###### ア 単元計画の工夫

他学年との関連や児童の生活経験を踏まえ、単元計画の中に「本時の学習で活用する既習事項」として書き出すことで、単元全体の学習の流れをつかみ、より計画的に学習活動を組み立てていく手がかりとした。

また、1時間1時間の授業の中でどのような課題をどのように提示していくのかを考えて単元計画を立てた。課題とまとめは対応するものと考え、指導案上に授業の着地点である「本時のまとめ」を明記していくことにした。

###### イ 活用を高める場を意識した本時案の工夫

指導上の留意点の中に『活用を高める場』として、自力解決における「既習事項を活用する場」と集団解決による「考えを深める場」を明記した。

C-1 指導案（1年生）

C-2 指導案（3年生）

C-3 指導案（5年生）

##### ③ 既習事項の活用

- ・毎時間の授業の課題を解決するにあたって活用できる既習事項を板書して提示
- ・前時までの授業の考え方のポイントをまとめたものを教室内に掲示
- ・ノートによるふり返り（既習を想起し、本時の学習との共通点や相違点を確認）

##### ④ 「聞き上手・話し上手」から「説明上手」を育てる取組へ

###### ア 算数的活動の工夫

- ・自力解決の場で図・式・言葉などを使って考え、自分の考えを友だちに説明することを前提にして書く活動の工夫
- ・学び合いの場面で、それらの図・式・言葉等を使って分かりやすく説明する活動の工夫
- ・「まず」「たとえば」「つまり」などの接続詞や算数用語を意識的に使わせる取組
- ・体験を重視した活動の工夫

###### イ 指導形態の工夫

- ・ペア・グループ学習の工夫
- ・少人数授業の工夫（習熟度別・等質）

###### ウ 全員参加の授業のための取組

D-1 活用力を高める授業づくり

- ・リレー発表（言葉のバトンをつないで説明する。）
- ・繰り返し発表（友だちの考えを復唱し、自分のものにする。）

## (2) 授業を支える日常の取組

### ① 基礎・基本の定着のための取組

- ・朝読書の取組（ポプリの会による読み聞かせ活動、「ほんの本」による読書のすすめ）
- ・チャレンジタイムの取組（チャレンジプリントの追加と整備）
- ・自学の奨励（「家庭学習の手引き」の配布、「10分×学年」の家庭学習の定着の取組）
- ・補充学習の充実（担任・少人数担当の連携、週1回の「補充学習」の実施）

### ② 学習環境の整備

- ・ノート展示（教師が選ぶ「おすすめページ」、児童が選ぶ「お気に入りページ」）
- ・各学年の算数コーナーの設置（授業の発展的内容、量感を育てる内容、おもしろ問題等）

E-1 家庭学習の手引き

F-1 算数コーナー

## 3 指導の実際

### 1年生「ひきざん（お話づくり）」の授業

学 習 活 動	
2. 本時のめあてをつかむ。 3. 解決の見通しをもつ。 ・ペンギンの場面から、たし算やひき算のお話問題をつくれるかを考える。 ・作問をするときに必要なことは何かを確かめる。 4. 正しい問題文をつくる。 5. 立式し答えを出し発表する。 ◎8+4=12   ◎12わ   ◎8-4=4   ◎4わ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上の留意点 ☆評価（観点・方法）○支援</li> <li>・どんな場面なのか意見を出させて、挿絵の場面を的確に把握させる。</li> <li>・「みんなで」や「くると」などは加法、「どれだけおい」「のこりは」「ちがいは」は減法になることを確かめさせる。</li> <li>・たし算の問題もあることを伝える。</li> </ul> <p style="text-align: right;">活用を高める場</p> <p>【既習事項を活用する場】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作問の約束を思い出させる。</li> <li>「何がいくつか」 「たし算・ひき算言葉」「おたずね文」など。</li> </ul>
6. 他の場面からお話をつくる。 7. つくったお話、式、答えを発表し合う。 ・自分の考えたお話、式、答えを発表する。 ・なぜたし算やひき算と考えたのか、理由も発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表しやすい雰囲気作りをする。</li> <li>☆場面をもとに、加法・減法の問題をつくり、立式することができる。（表・処・ノート、観察）</li> </ul> <p style="text-align: right;">活用を高める場</p> <p>【考えを深める場】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜたし算やひき算と考えたのか、理由も発表させる。</li> <li>・「何がいくつ」「たし算言葉・ひき算言葉」「おたずね文」があるかどうか考えながら聞かせる。</li> <li>・発表内容を他の児童に復唱させることで理解を確かなものにさせる。</li> </ul>
8. 今日の学習をまとめる。 「何がいくつ」や「たし算・ひき算言葉」「おたずね文」を使って、お話問題がつくれたよ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習のまとめをノートに書かせる。</li> </ul>

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・課題解決型授業スタイルの学び方が児童に定着し、「みんなでいろいろな考えを出し合う授業は楽しい。」「難しい問題が解けるとすっきりする。」といった声が多くなり、児童の算数科に対する学習意欲が向上した。
- ・毎時間欠かさず児童のノートをチェックしコメントを入れるというノート指導を全校あげて取り組んできた結果、児童のノートスキルが向上した。また、児童の書いたまとめや算数日記が、教師の指導の評価材料となり、授業改善への手がかりともなった。

### (2) 課題

- ・自分の考えを論理的に組み立てて話せる児童は、まだまだ少ない。安心して話せる温かい学級の雰囲気づくりを基本とし、さらに説明上手な子どもを育てる取組を工夫し充実させる。
- ・基礎的・基本的な学力の向上に向けての取組を継続しつつ、一人一人の児童に対応した指導を全校体制で系統的に積み上げていく。